

平成24年度 豊かなむらづくり全国表彰事業 東北ブロック受賞事例の概要

【農林水産大臣賞】

～自分達のむらは自分達の手作り～

受賞団体：浄門^{じょうもん}の里づくり協議会（岩手県二戸市^{にのへし}）

◆むらづくりの背景・経緯

門崎集落では、集落に若者が帰ってくる機会が減少してきたことから、住民の多くが「このままでは村が廃れてしまう」という危機感を持ち始めていた。集落に若者が帰ってくるようにするにはどうすれば良いかを真剣に話し合い、平成8年3月に「21世紀に向けたむらづくり10カ年計画」を取りまとめ、この計画を実行するための「門崎むらづくり推進協議会」を集落全19戸が参加し設立した。平成20年3月に地方自治法第260条の2に基づく地縁団体に認可され、名称を「浄門の里づくり協議会」に変更した。

◆むらづくりの内容

○農業生産面

集落内の農業者の多くは自家消費向けの少量多品目生産が中心の兼業農家であったが、農業以外で得た専門知識を活かし産直施設「浄南ママ直」を手作りで整備した。少量多品目生産の特長を活かした様々な野菜などを販売していく中で、農業所得を得る機会が増加したことから4名の若者が都会からUターン就農し、うち3名は専業農家となり地域農業の新たな担い手として活躍している。



産直施設「浄南ママ直」

また協議会が開催する交流体験により、集落内の子供たちの農業理解が深まり、進んで農作業を手伝うようになっている。

○生活・環境整備面

10カ年計画に基づき、住民自らの手で下水道工事を実施し、全戸に下水道を整備したほか、農村公園、水車小屋、炭焼き小屋なども住民の手で整備を行い、年間を通じた都市住民との相互交流の場として活用するなど、集落の賑わいづくりにうまく活用されている。また、むらづくり活動の成果として、集落の人口は平成8年からほとんど変わりなく推移する一方で、高齢化率は低下しており、集落の活力が保たれている。



整備された水車小屋